

タンチョウも住めるまちづくり検討協議会（第3回）

➤ 協議会におけるタンチョウをシンボルとした具体的な取組内容について議論し、今後の取組方針を策定

- 開催日時：平成29年3月6日（月）15:00～17:15
- 実施場所：京王プラザホテル札幌 チェリールーム（札幌市）
- 参加機関等：学識経験者、長沼町関連団体、北海道空知総合振興局、北海道地方環境事務所、長沼町、札幌開発建設部、（公財）日本生態系協会 等



【協議会の様子】

取組方針

タンチョウも住めるまちづくり検討協議会

- ◆多様な主体の連携と協働により、舞鶴遊水地を軸として、賑わいがあり経済の好循環が実感できる地域の実現を図る

生息環境専門部会

- 舞鶴遊水地におけるタンチョウの営巣
- タンチョウの採食場・営巣環境の創出
- タンチョウ等の野生生物の生息に配慮した環境保全と利用に関する社会ルールの定着

地域づくり専門部会

- 環境教育の促進
- 住民参加の促進 「学ぶ・挑戦する
- 地域資源の活用 ・仲間を増やす
- 観光交流の促進 ・楽しむ」
- 情報とりまとめ共有

中村座長
（兼：生息環境専門部会座長）



小磯委員
（兼：地域づくり専門部会座長）



様々な取組の種が芽生えてきた。
既存の取組の発展や、新たな取組を一歩ずつ具体的に実践していくことが求心力を生む。取組内容は実践していく中で柔軟に対応していくことが重要。

時 期	生息環境に関する取組内容
H29. 3末	・啓発看板の設置
H29. 4以降	・舞鶴遊水地環境調査（植物、鳥類、水質、底質等の各種調査） ・環境保全と利用のガイドライン策定 ・食害対策（食害事例調査、現況把握） ・アライグマ対策 ・タンチョウの営巣に適した環境創出 ・タンチョウ飛来状況の把握 など

テーマ	地域づくりに関する取組内容
環境教育の促進	・遊水地、タンチョウ等を題材とした環境教育の推進 ・地域の自然や歴史を学ぶ町内各校の取組を支援
住民参加の促進	・取組の認知度の向上、様々な主体との連携協力 ・共通のシンボルマーク作成、多様なイベントの開催
地域資源の活用	・地域資源の付加価値の向上、地域経済の好循環を促進 ・タンチョウをシンボルとした商品開発、販路確保
観光交流の促進	・グリーンツーリズムの発展 ・ガイド育成、観察施設、周遊観光ルート開発等
情報とりまとめ共有	・広報の強化、リアルタイム配信等 ・先進地の視察等を通じ先進事例を学ぶ

第3回 タンチョウも住めるまちづくり検討協議会 議事概要

〔日 時〕：平成29年3月6日（月）15：00～17：15

〔会 場〕：京王プラザホテル札幌 チェリールーム（札幌市中央区北5条西7丁目2-1）

〔出席者〕：全33名（委員14名、報道機関2名、傍聴・事務局等17名）

（1）各専門部会の開催報告

- 生息環境専門部会より、営巣環境の構築、環境保全と利用に関するガイドライン、社会的課題等に関する検討内容について報告された。
- 地域づくり専門部会より、地域資源の活用、住民参加、環境教育、観光交流等に関する検討内容について報告された。

（2）長沼町タンチョウとの共生検討会議の開催報告

- 本協議会での議論、取組状況及び課題・懸念等について、「長沼町タンチョウとの共生検討会議」と情報共有し、双方向で意思疎通を図り取り組みを進めていくものとする。

（3）タンチョウも住めるまちづくり検討協議会の取組方針の策定

- 本協議会及び各専門部会におけるタンチョウも住めるまちづくりの取組方針について了承された。
- 取組内容は固定するものではなく、実際に取組を進める中で柔軟に対応するものとする。

（4）今年度の主な取組事項の報告

- 社会ルールの定着のため、舞鶴遊水地周辺が鳥類の生息地であること、観察にあたって鳥類への配慮が必要であることなど、今季のタンチョウ飛来に備えて啓発看板を設置する。
- 取組の普及啓発の一環として、町が毎月発行する「広報ながぬま」で、タンチョウの生態等について町民からの質問に正富委員が答える形で連載を開始する。

（5）来年度以降の取組事項（案）

＜生息環境の構築＞

- 営巣に必要なヨシ群落の拡大と育雛期に雛を抱くドライエリアを確保し、生息環境を構築する。
- 「環境保全と利用のガイドライン(案)」を策定するとともに、それを知ってもらう取組も併せて進め、生態系を保全しながらまちづくりへの利活用を促進する。
- 引き続き舞鶴遊水地及び周辺の環境調査を継続するとともに、アライグマによる捕食対策を実施する。

＜地域づくりの取組＞

- グリーンツーリズムの先進地域として、都市農村交流の取組をさらに発展させる視点が重要。
- 既存の環境教育プログラムとも連携して、地域への愛着を育む取組を展開する。
- シンボルマーク作成や各種活動との連携など、取組の認知度を上げることで応援者を増やしていく。
- タンチョウをシンボルとした商品開発などを様々な産業に展開し、経済の好循環を目指す。

- 観光客を呼び込むためのイベント開催やガイドの育成、観察施設の整備を検討する。
- 長沼の素晴らしい自然環境や地域資源を繋ぐフットパスなど、幅広い取組で交流を促進する。
- 取組に関連した特産品などを扱う場を設け、情報発信や来訪者をガイドツアーに誘導するなど
の連携を検討する。売上の一部を運営費にするなど、継続的な運営方法を検討する。
- 全国の先進事例を上手に取り込むことが重要。早い時期に部会委員による視察機会を作る。

【総 括】

- 行政だけでは牽引力に限界もある。地域のやる気のある人たちをサポートする体制になれば、
それがさらに求心力を強めていく。
- 本協議会及び各専門部会の議論で提案された内容について、全部同時にということではなく、各
主体ができる範囲で具体的に実践し、一つずつ前に進めて行くことが重要。
- これまでの長沼町におけるまちづくりの実績や経験に、タンチョウという新しい魅力、資源を
取り入れて、いかに発展させるかを考えていきたい。